TOYOTA

小型ロックミシン　取扱説明書

型式	SL1T	SL1T-X

・このたびは当社商品をお買い上げいただき、誠にありがとうございました。
・取扱説明書は、ご使用前に必ず最後までお読みください。
　お読みになった後も、いつでも取り出せる場所に保管してください。
・このミシンを他の人に譲渡した場合は取扱説明書も渡してください。

【お問い合わせ先】

【修理・不具合に関するお問い合わせ先】
お客様相談室
0120-24-8640（フリーダイヤル）
受付時間：8:30～17:30
（土日・年末年始・ゴールデンウィーク・夏季休暇は除く）

【お問い合わせ時のお願い事項】
※ お電話での故障診断及び操作確認により、解決する場合がございますので、お手数ですが、お電話口にミシンと取扱説明書をご用意いただき、ご連絡いただきますようお願い致します。
※ ミシン背面に貼付記載されている「型式」「機種名」をご確認の上お問い合わせください。

型　式　○○○○○
機種名　○○○○○

【部品購入に関するお問い合わせ先】
Ｌ＆Ｅサービス物流センター
電話 0566-91-3419
受付時間：9:00～18:00
（土日・年末年始・ゴールデンウィーク・夏季休暇は除く）

安全上のご注意（ご使用になる前に必ずお読みください）

お使いいただく人や他の人への危害や損害を未然に防止するため、お守りいただくことを次のような方法で説明しています。
誤った取扱いをしたときに生じる危害や損害を「⚠ 警告」と「⚠ 注意」に区分し、お守りいただく内容を絵表示を使用し説明していますので、必ずお守りください。

「⚠ 警告」「⚠ 注意」の意味

⚠警告	誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
⚠注意	誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性や物的損害の発生が想定される内容を示しています。

「絵表示」の意味

(接触禁止)	触れる行為の禁止を表しています。
(禁止)	してはいけない行為を表しています。
(指示)	必ずおこなっていただくことを表しています。
(プラグを抜く)	電源プラグをコンセントから抜くことを表しています。

⚠警告

交流100Vで使用してください。

感電・火災の原因になります。

ミシンの使用後、ミシンから離れるとき、停電したときは、電源スイッチを「OFF 」にし、電源プラグをコンセントから抜いてください。

感電・火災・ケガの原因になります。

注意

ベッドカバー・フロントカバーは閉じて使用してください。

ケガの原因になります。

針交換や糸の準備時は電源スイッチを「OFF」にしてください。

ケガの原因になります。

ミシンを操作中は、針から目を離さないようにしてください。

もし針が折れたときケガをする原因になります。

針・上メス・はずみ車など動いている部分に触れないでください。

ケガの原因になります。

お子様が使用するときは保護者の指導のもとに使用してください。

ケガの原因になります。

小さなお子様の近くで使用しないでください。

針などに触れてケガをする原因になります。

電源コード・フットコントローラーコードを加工したり、無理に曲げたり、引張ったり、ねじったりしないでください。

感電・火災の原因になります。

次のような行為をしないでください。ケガの原因になります。

- 押えを下げずに縫う
- 針の取り付けがまちがっている
- 曲がった針を使用する
- 布を無理に引張って縫う

ミシンを使用する前に押え止めネジ、針止めネジ、針板止めネジがしっかり締まっていることを確認してください。

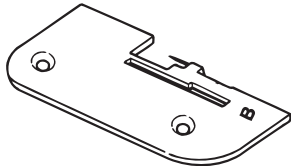
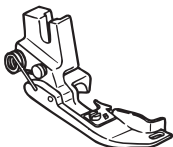
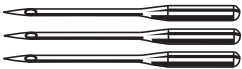
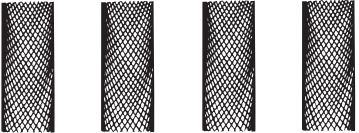
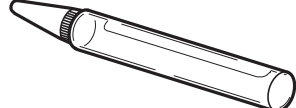
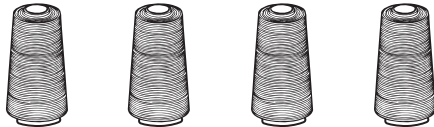
ケガの原因になります。

目次

1 各部のなまえ

押え上げレバー
（P8参照）
押え圧調節ネジ
（P8参照）
糸掛け棒
糸立て棒
ハンドル
ランプ
天びん
糸コーン受け
糸調子ダイヤル
（P8参照）
糸立て台
縫い目ピッチ調節
レバー（P11参照）
差動送り調節
ダイヤル
ベッドカバー
（P9参照）
はずみ車
（P7参照）
フロントカバー
（P9参照）
警告表示ラベル
注意
けがをする恐れがあります。
・ 糸通し、掃除、調節するときは電源
スイッチを切る。
・ 使用時はカバー類を閉じる。
上メス
切り幅調節ダイヤル
（P10参照）
上ルーパー
※押えホルダー
押え止めネジ
押え
針止めネジ
針棒糸掛け
針
針板
止めネジ
下ルーパー
針板
※ぜっぺんレバー
※SL1T-Xのみ
電源スイッチ
ターミナルボックス

2 付属品

・取扱説明書　（1冊）
・付属品箱　（1個）
・ミシンカバー　（1個）
・フットコントローラー　（1個）

警告表示ラベル

⚠ 注意ー感電、火災、けがなどの原因になります。

・フットコントローラーの上に物をのせないでください。
・使用後は、電源プラグを必ず抜いてください。

付属品箱内に次の付属品が入っています。

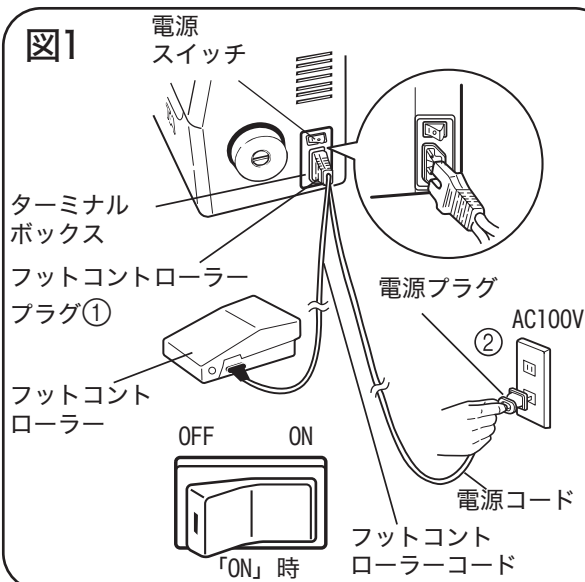
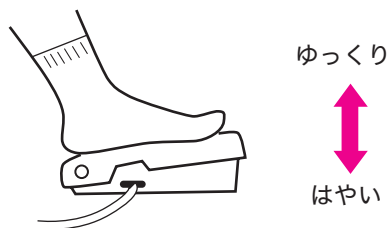
巻き縫い用針板（1個） ※SL1Tのみ	巻き縫い用押え（1個） ※SL1Tのみ
ドライバー 小1本 大1本	ピンセット（1個）
針（組） 11番……2本 14番……3本	ブラシ（1個） 糸コマホルダー（4個）
ネット（4本）	ミシン油（1個）
（出荷状態でミシンに取り付けてあるもの） ロックミシン用 試し縫い糸（4本）	

＊ 始めてご使用になる時に付属品がすべて入っていることを確認してください。

3　縫う前の知識

ミシンの動かしかた

⚠注意

- フットコントローラープラグ・電源プラグを差込むときは電源スイッチを「OFF」にしてください。ケガの原因になります。
- フットコントローラープラグ・電源プラグを抜くときはコードを引っ張らないでください。電源コードが傷つき、感電・火災・ケガの原因になります。
- 濡れた手でフットコントローラープラグ・電源プラグに触れないでください。感電の原因になります。
- ミシンを使用するとき以外は電源スイッチを「OFF」にしてください。ケガの原因になります。

1. フットコントローラープラグ①をターミナルボックスに差し込みます。
2. 電源プラグ②をコンセントに差し込みます。
3. 電源スイッチを「ON」にしますと電源が入り、ランプが点灯します。（図1）

4. フットコントローラーを踏むとミシンは動き出します。（図2）

＊ フットコントローラーは、深く踏むほどはやくなります。
ご自分の縫いやすい速さに調節し使ってください。

はずみ車

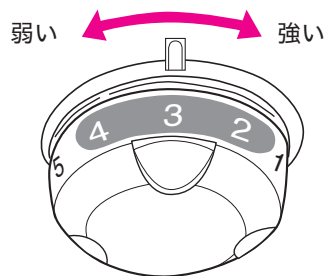
はずみ車を回すと、針・上メス・上ルーパーが上下し、下ルーパーが左右に動きます。

＊ 糸通し、針の取りかえなどのときに使います。

＊ はずみ車は必ず手前に回してください。

糸調子ダイヤル

糸調子ダイヤルは“色塗りした目盛の範囲”が目安です。

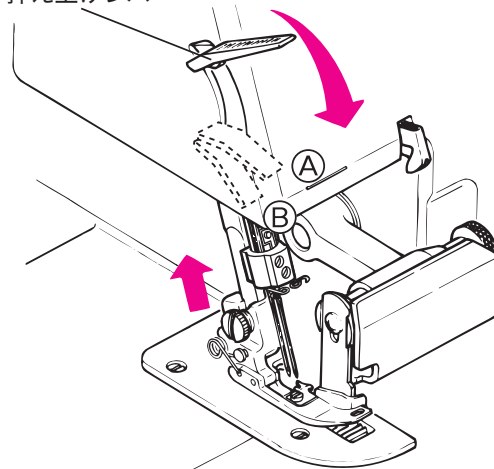
＊ 糸・布により異なります。
＊ 適切な糸調子を得るために、実際にお使いになる布の切れはしで、試し縫いをして、調節してください。

ダイヤルの数字が大きくなると糸調子が強くなります。

機種により形状、表示が異なる場合があります。

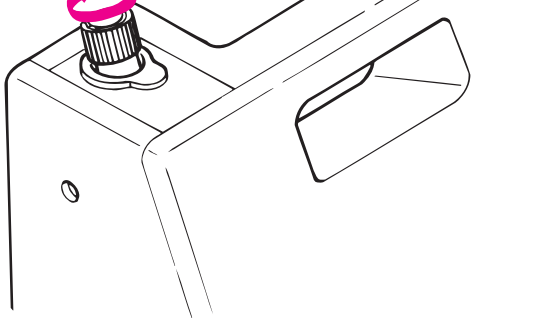
押え上げレバー

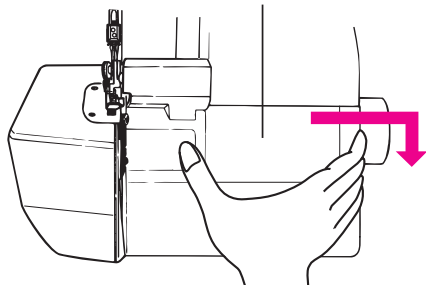
押えを上げるときは、押え上げレバーを下げます。
押え上げレバーはⒶ位置で止まります。

＊ Ⓑ位置まで動かすと、さらに押えを上げることができます。厚い布を縫うときや押えを交換するときに使います。

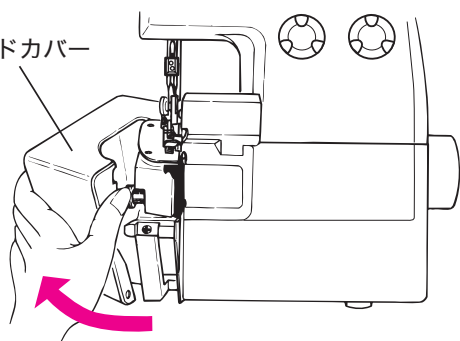
（Ⓑ位置では止まりませんので、手でレバーを押し下げた状態で使用してください。）

押え圧調節ネジ

押え圧調節ネジを回すことにより、押え圧を調節できます

1. 厚い布を重ねて縫うときなど布を送らない場合は強くします。
2. 薄い布や、ニットなどのように押しつぶされやすい布のときは弱くします。

⚠注意

- フロントカバー、ベッドカバーを開くときは電源スイッチを「OFF」にしてください。ケガの原因になります。
- ミシンを使用するときはカバーを閉じてください。ケガの原因になります。

フロントカバー

フロントカバーを開くときは、右によせて手前に開きます。

＊ 上メスの解除や糸を通すときは、フロントカバーを開いて行ないます。

ベッドカバー

ベッドカバーは、左方向に押すと開きます。

＊ 縫い目ピッチ調節レバー、切り幅調整ダイヤルの操作と、下ルーパーへ糸を通すときは、ベッドカバーを開いて行ないます。

上メスの解除

1. はずみ車を手前に回し、針を一番上にします。
2. 上メスのⒶ部を左の指で矢印方向に止まるまで押します。
3. 右の指でⒷ部をつまみ、Ⓒ方向へ回します。回し始めたら左の指を離します。（自動的にロックされます。）
4. 点線の位置まで回すと、Ⓓ方向にメスが動きロックされます。
5. 元に戻すにはⒶ部を押しⒷ部を逆方向に回します。

＊ 針に糸を通すとき上メスを解除すると糸を通しやすくなります。

⚠注意

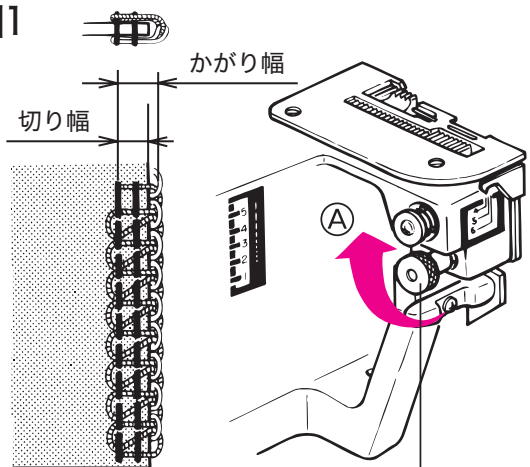
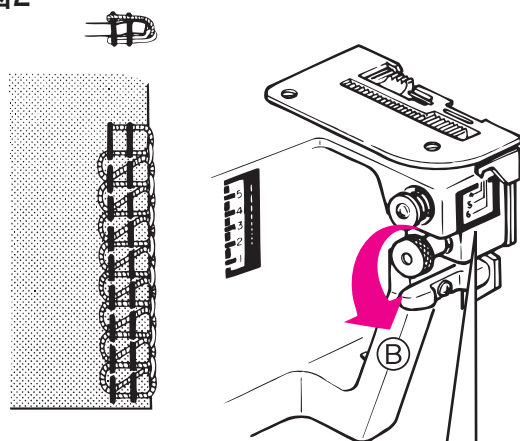
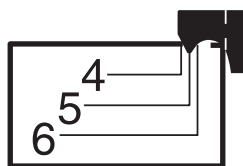
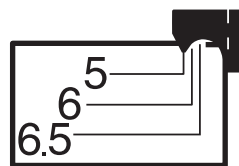
- 上メスを動かすとき、刃部に指を触れないでください。ケガの原因になります。

切り幅調節ダイヤル

布の厚さや種類に応じて、切り幅を調節できます。

【SL1T-Xをご使用の場合】
かがり幅と切り幅は連動しています。
切り幅調節ダイヤルを回し、お好みの切り幅で縫えます。
右針・３本糸で縁かがり縫いをする場合は５mmのセットで約３mmの仕上がりになります。

【SL1Tをご使用の場合】
４本糸で縁かがりをする場合、かがり幅はミシンについている普通用針板と付属品の巻縫い用針板で２通りのかがり幅で縫うことができます。
右針３本糸で縁かがり縫いをする場合は５mmのセットで約３mmの仕上がりになります。
かがり幅に合わせて布端がきれいになるように切り幅調節ダイヤルを回し調節してください。

1. 切り幅がかがり幅よりせまいときは、ベッドカバーを開いて切り幅調節ダイヤルをⒶ方向に回し切り幅をひろくします。（図１）
2. 切り幅がかがり幅よりひろいときは、ベッドカバーを開いて切り幅調節ダイヤルをⒷ方向に回し切り幅をせまくします。（図２）
3. 図３は、左針からの切り幅が約５mmであることを示します。

縫い目ピッチ調節レバー

ベッドカバーを開き縫い目ピッチ調節レバーを上下させ、縫い目ピッチを1〜4.4mmの範囲で調節できます。

＊ 一般に縫い目ピッチは2.5〜3 mmの範囲が多く使われています。

ネット

化粧糸などのほつれやすい糸や、糸が糸掛けなどから外れやすいとき、付属のネットを使います。

糸コマホルダー

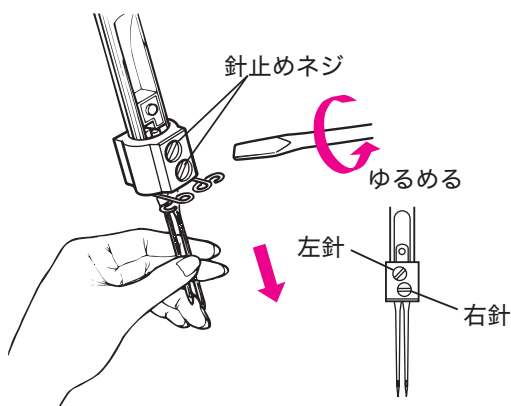
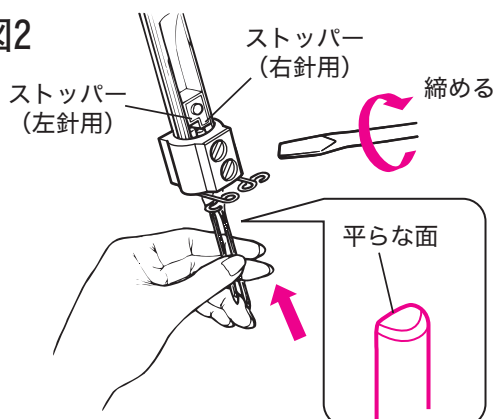
コマ巻き糸を使用するときは糸コーン受けを外し、付属の糸コマホルダーを使います。

4 針の取りかえかた

⚠注意

- 針を取りかえるときは、電源スイッチを「OFF」にしてください。ケガの原因になります。
- 針止めネジがしっかり締まっていることを確認してください。ケガの原因になります。
- 折れた針は危険です。必ず回収してください。ケガの原因になります。

1. はずみ車を手前に回し、針がいちばん上がったところで止めます。
2. 付属のドライバー（小）で右/左針止めネジをゆるめて、右/左針を別々に抜き取ります。（図1）

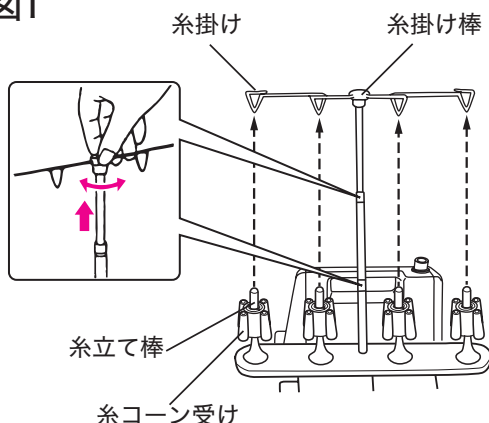
＊ 針止めネジをゆるめすぎて針止めネジがはずれないように気を付けてください。

3. 新しい針の平らな面を後側に向けストッパーに当たるまで押し込みます。
右/左針止めネジをドライバーでしっかり締めます。（図2）

正しい針の選びかた

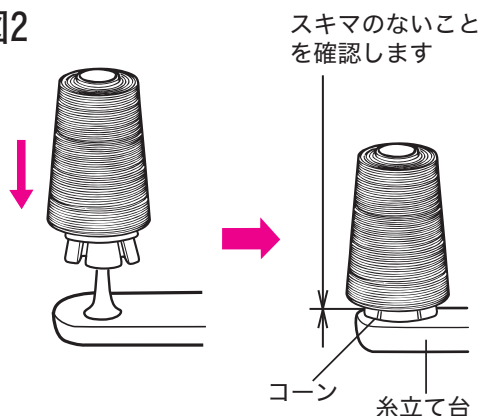
不良の針を使いますと、縫えないばかりでなく、針板やルーパーにキズをつけたり、針を折ったりします。

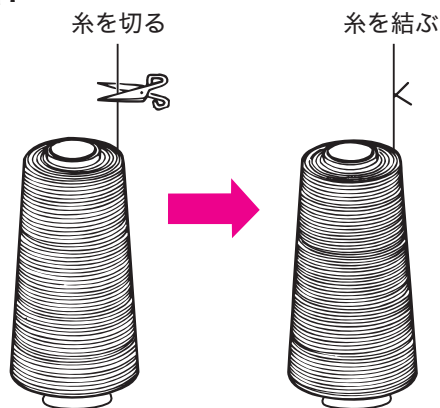
＊ 目とびが発生した場合、まず針をかえてみてください。

5 糸の準備

⚠注意

❗ 糸の準備、押えを取り替えるときは電源スイッチを「OFF」にしてください。ケガの原因になります。

糸のセット

1. 糸掛け棒をいっぱいに伸ばし、糸掛けが糸立て棒の真上になるように位置決めをします。（図1）

2. 巻き糸を糸立て棒にセットします。（図2）

＊ コーンと糸立て台とのスキマに糸がからみ付くことがあります。スキマのないように巻き糸を押し込んでください。

糸の取りかえかた

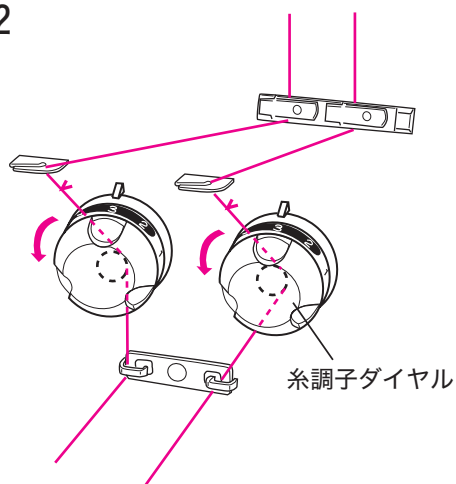
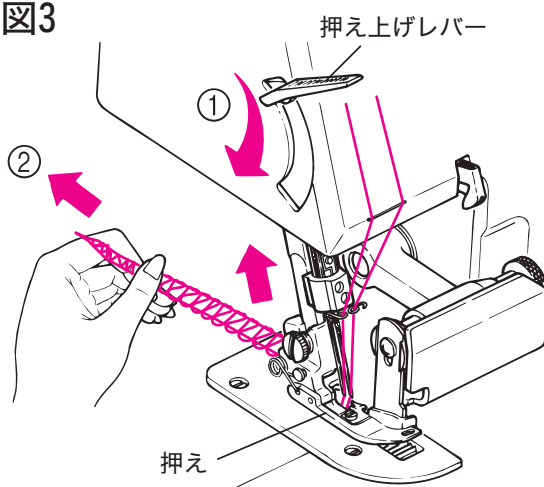
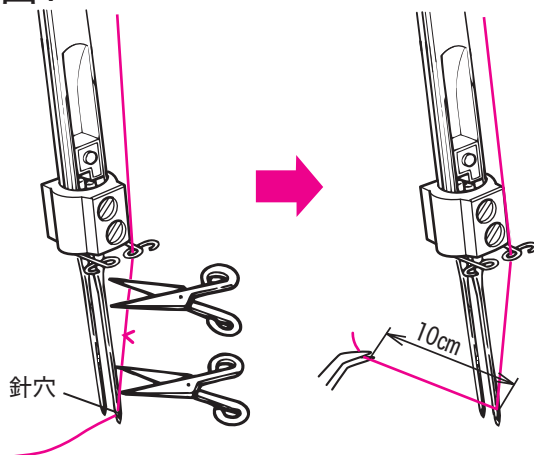
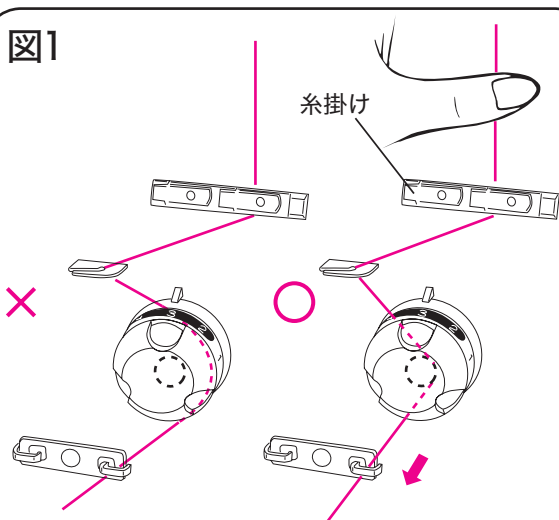
ミシンに糸がセットされている状態で、針糸およびルーパー糸を他の糸に取りかえる場合は1～8の順で行うと便利です。

1. 使用している糸を巻き糸の近辺で切ります。新しく使用する糸を糸立て棒にセットし、使っていた糸の端と結びます。（図1）

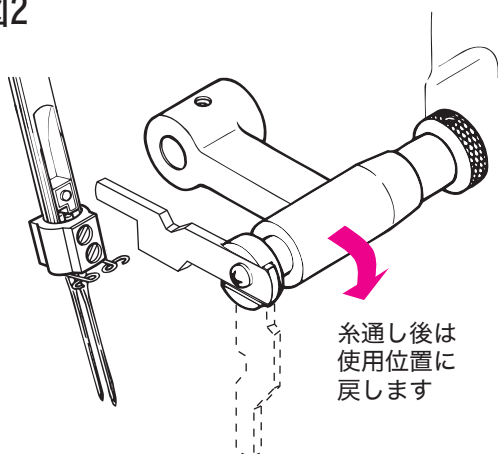
2. 糸の結び目を通りやすくするため、糸調子ダイヤルを「0」の位置にします。（図2）

＊ 糸の取りかえを終えたら、糸調子ダイヤルを「0」から「もとの位置」にもどすことを、わすれないでください。

図2

糸調子ダイヤル

3. はずみ車を手前に回し、針がいちばん上がったところで止めます。
4. 押え上げレバー①を下げて押えを上げます。
5. から縫いされた糸②を引き出します。
6. 押えより10ｃｍほど後に結び目がくるまで、糸を引き出して切ります。（図3）

針糸については、さらに次のようにしてください。
7. 針穴の手前で結び目を切ります。
8. 針糸は針穴へ糸を通したあと、針穴から10 cmほど引き出しておきます。（図4）

糸を通す前に

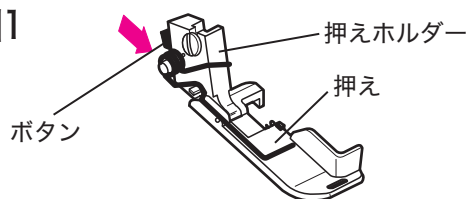
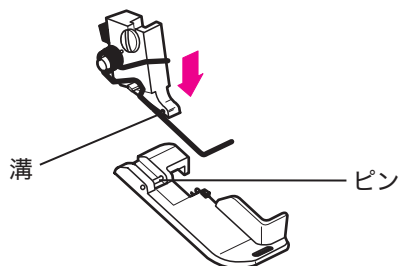
1. 糸調子に糸を掛けるときは、糸掛けの手前で糸を指で押えてください。（図1）

＊ 糸を押えないと、糸調子の中に正しく掛からない場合があります。

2. 上メスを解除の位置にしておくと（P9）針穴に糸を通しやすくなります。（図2）

＊ 糸通しを終えたら、上メスを使用位置に戻してください。針折れ、糸切れの原因になります。

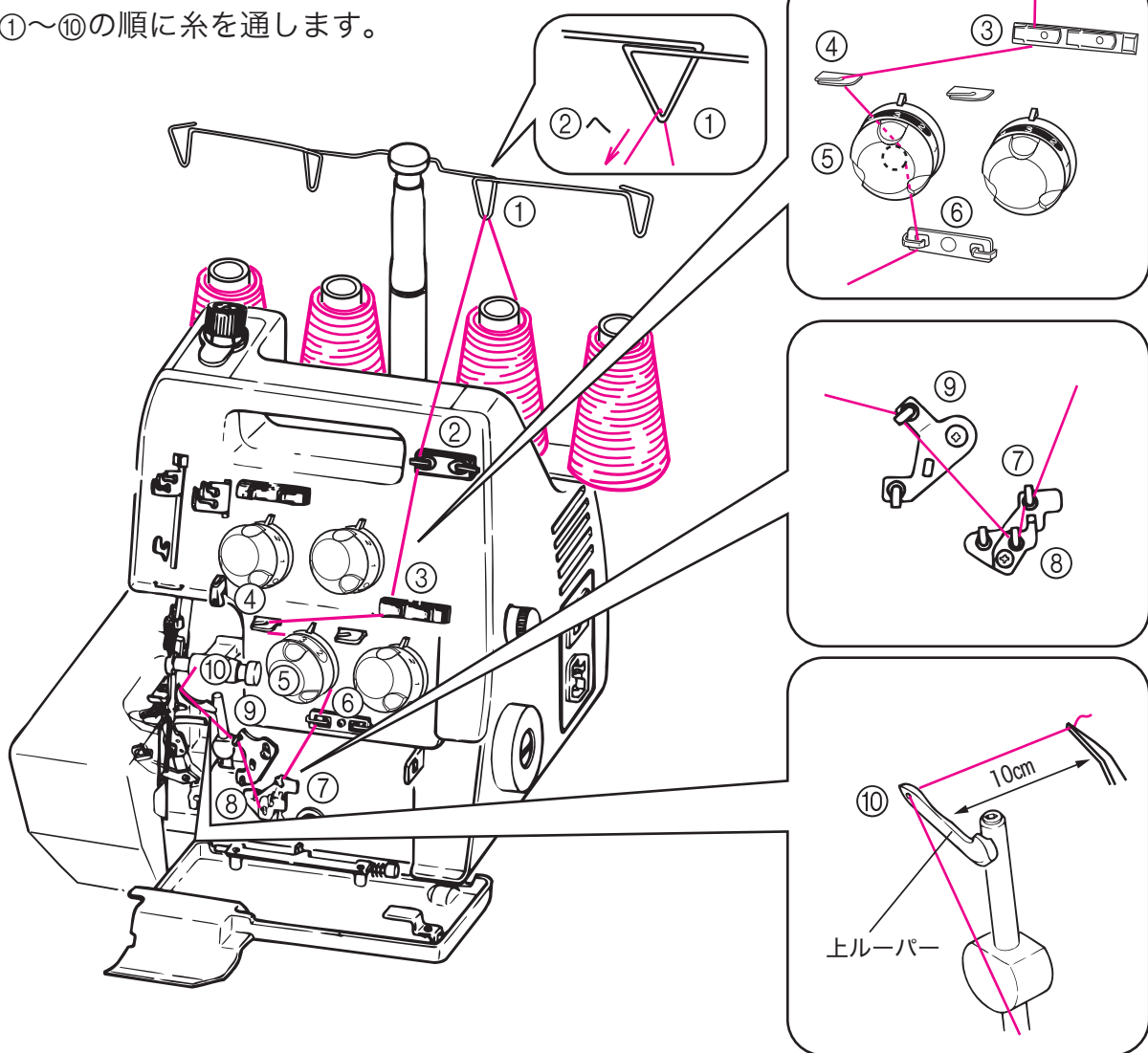
糸通しの順序

つぎの順に糸を通してください。
順番をまちがえると、糸がからむ恐れがあります。

1.上ルーパー糸（青マーク）
2.下ルーパー糸（緑マーク）
3.右針糸（赤マーク）
4.左針糸（黄マーク）

押えの取りかえかた

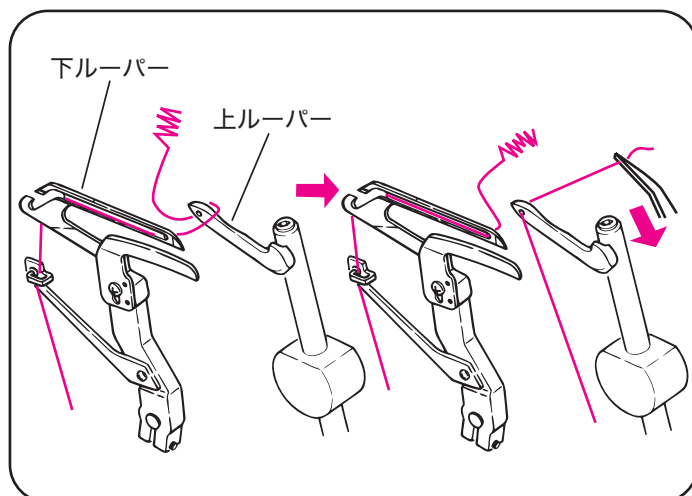
SL1T-Xのみ

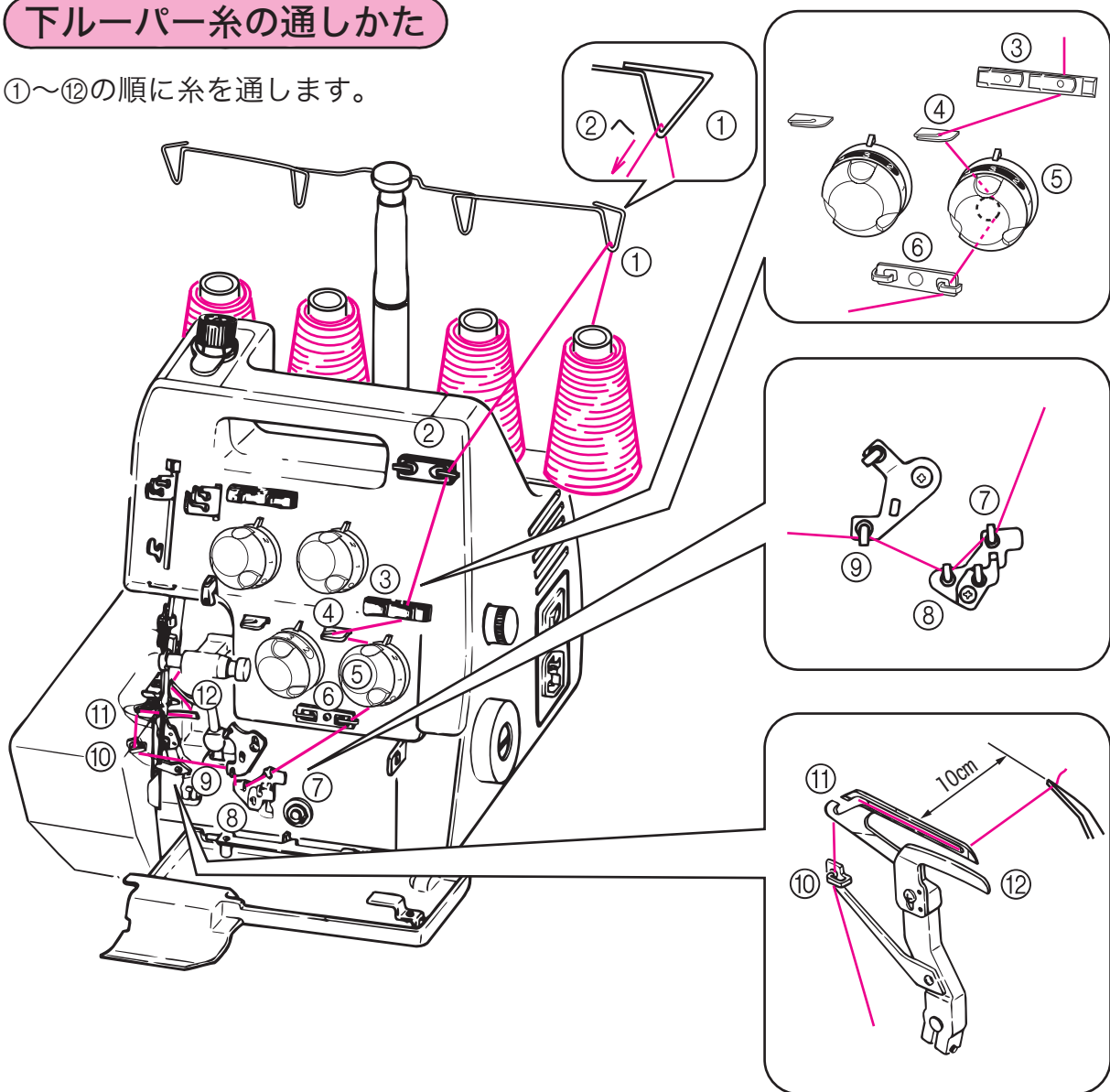
1. はずみ車を手前に回し、針が一番上に上がったところで止めます。
2. 押え上げレバーを操作して押えを上げます。（P8参照）
3. 押えホルダーのボタンを押すと、押えが外れます。（図１）
4. 交換する押えのピンと、押えのホルダーの溝とを合わせ、押え上げレバーを上げて押えをはめます。（図２）
5. 押え上げレバーを上下させて、押えがしっかりと取り付けられていることを確認します。

上ルーパー糸の通しかた

①〜⑩の順に糸を通します。

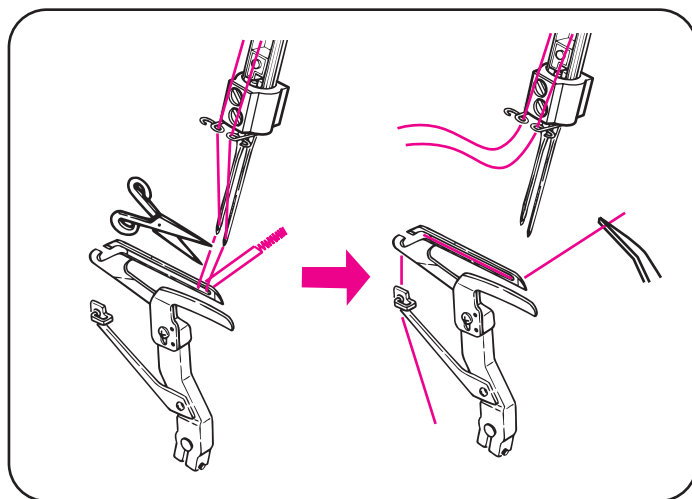
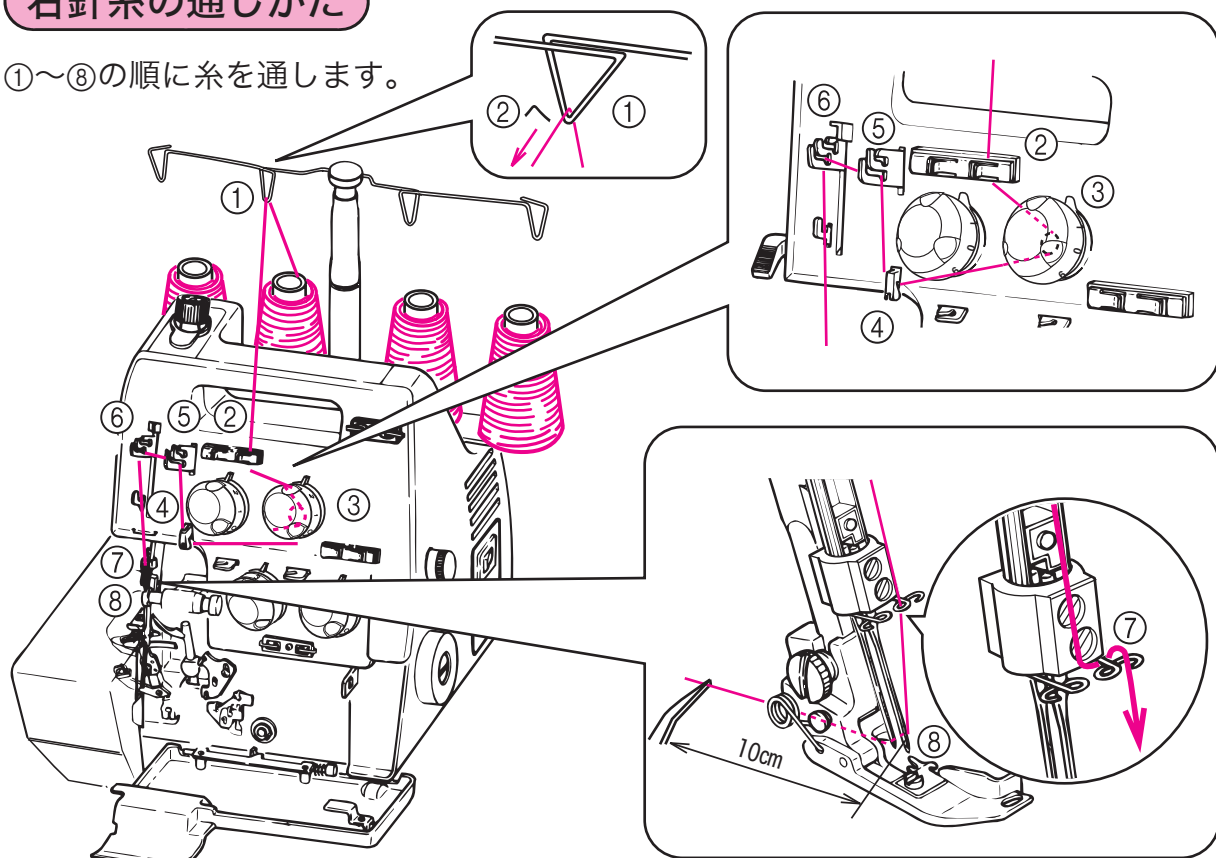
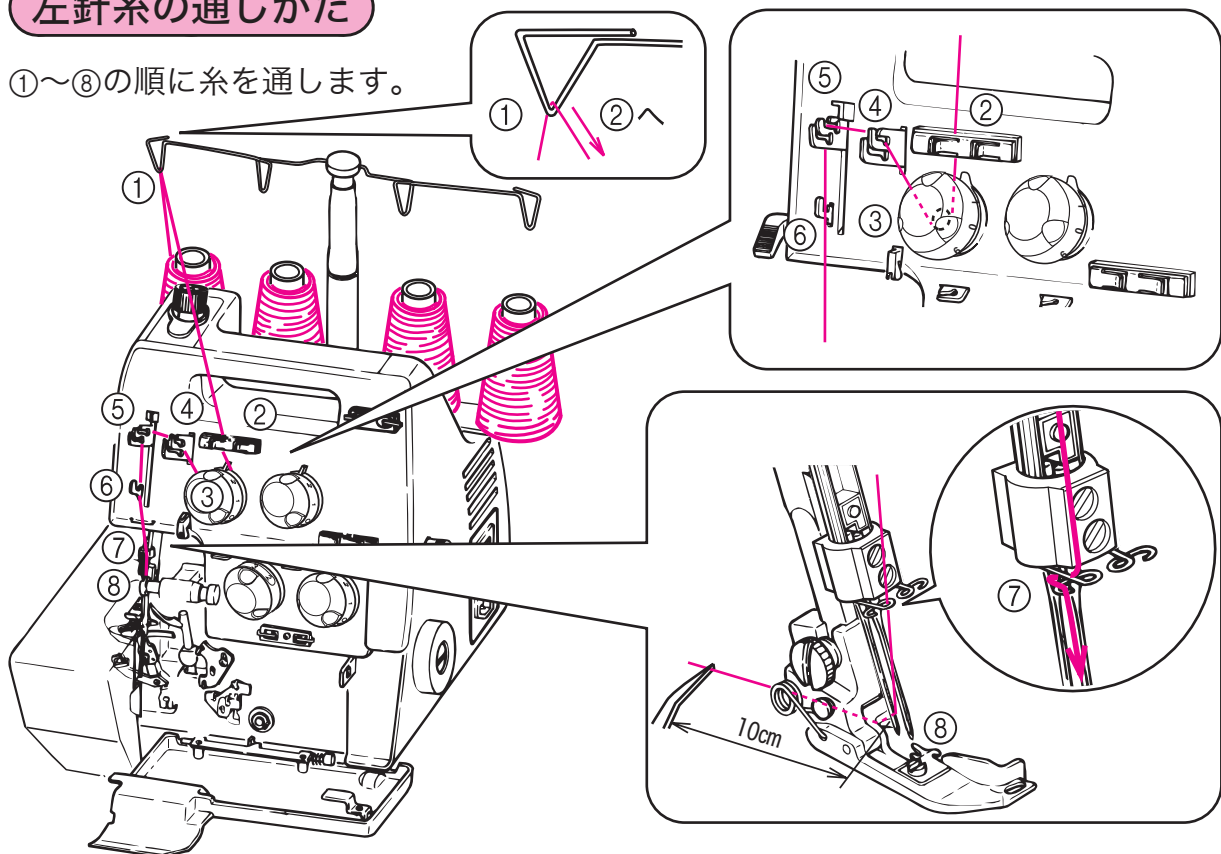
裁縫中に上ルーパー糸が切れたときは

下ルーパー糸が上ルーパーにかかっていることがあります。この場合は

1. はずみ車を後に回して（逆に回す）上ルーパーを下げます。
2. 下ルーパー糸を上ルーパーからはずします。
3. 上ルーパー糸を通します。

下ルーパー糸の通しかた

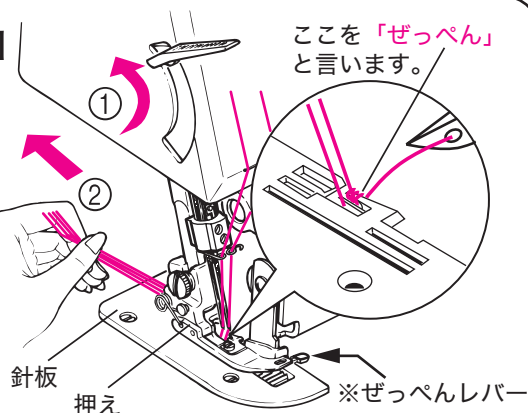
①〜⑫の順に糸を通します。

裁縫中に下ルーパー糸が切れたときは

1. 針糸を針穴から外します。
2. 下ルーパー糸を通しなおします。
3. 外した針糸を通しなおします。

＊ この手順で行わないと、糸切れの原因になります。

右針糸の通しかた
①〜⑧の順に糸を通します。
②へ
①
②
③
④
⑤
⑥
⑦
⑧
10cm
左針糸の通しかた
①〜⑧の順に糸を通します。
①
②へ
②
③
④
⑤
⑥
⑦
⑧
10cm

6 縫ってみましょう

⚠注意

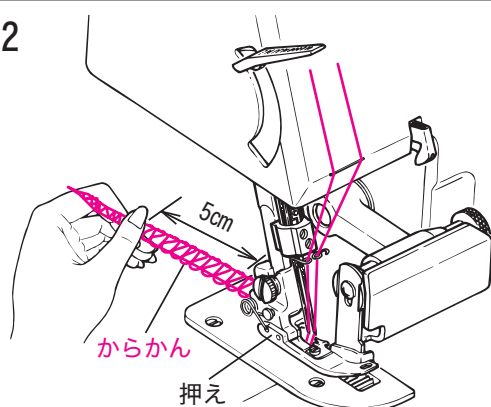
⃠ 縫っているとき布を無理に引っ張ったり押したりしないでください。
針が折れ、ケガの原因になります。

使用中、変わった音や臭いなどがしたら、ミシンを止め、電源プラグを抜いてください。
感電、火災、ケガの原因になります。
●点検・修理の依頼をしてください。連絡先は保証書を参照してください。

4本糸縁かがり縫い

4本の糸を使い、２本の針で縫います。

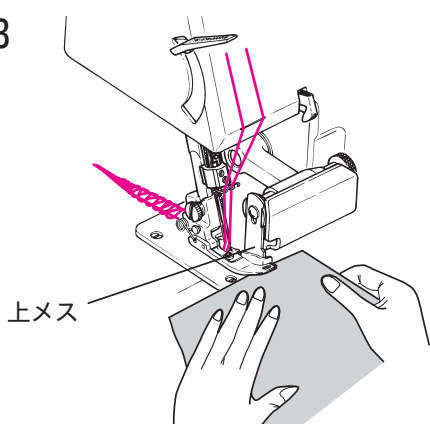
縫い始め

1.押えを下げ①、4本の糸を押えの下から後へ軽く引きながら②、はずみ車を２～３回手で回し針板のぜっぺんに糸をからませます。（図1）

※ ぜっぺんレバーは止まるまで押し込んで下さい。（SL1T-Xのみ）

2.4本の糸を後へ軽く引きながら、フットコントローラーを踏み、ミシンをゆっくり動かします。

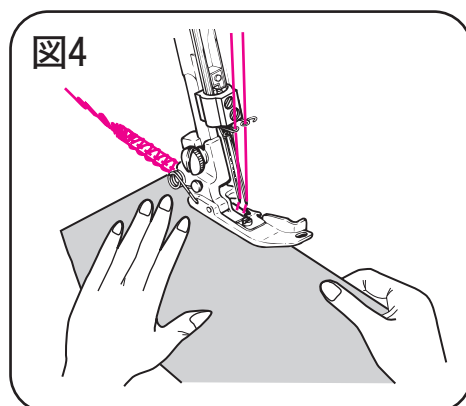
3.チェーン状の糸の編み目が出てきます。これを「からかん」と言います。

4.糸のほつれを防止するため、からかんを５cmほど出しておきます。（図2）

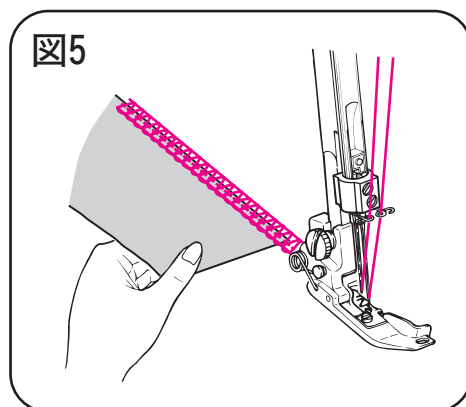
＊ からかんができないときは、糸通しが正しくできているか確かめてください。

布のセット

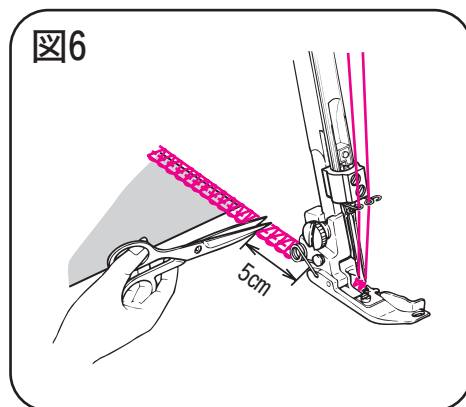
1.押えの前に押しつけながら布を送り込ませます。（図3）

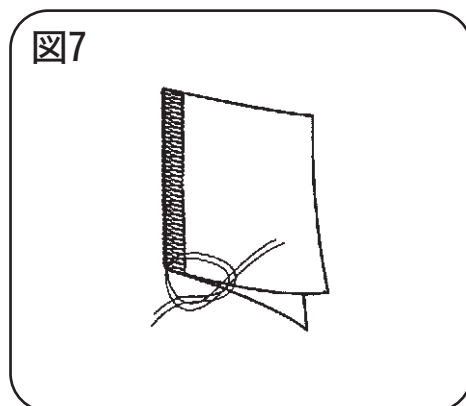
＊ 厚い布など布を送りこまないときは押えを上げ、上メスの手前まで入れてから押えを下げて縫ってください。

2. 左手をそえて、軽く送り出すようにして縫います。（図4）

縫い終わり

ほつれ止めのため、縫い終わりにもからかん縫いをします。

1. 縫い終わった布を左後方へ軽く引き出しながら、ミシンを動かし続けるとからかん縫いができます。（図5）

＊ 強く糸を引っ張ると、針が曲がったり折れたりします。

2. からかんが5 cmほどできたところで糸を切ります。（図6）

縫い始め、縫い終わりの糸のしまつ

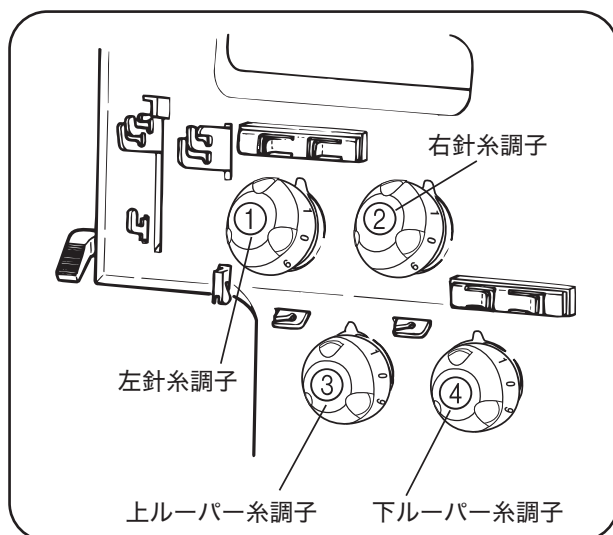
からかん縫いの糸をほどき、布端で結び目をつくります。

布、針、糸の関係

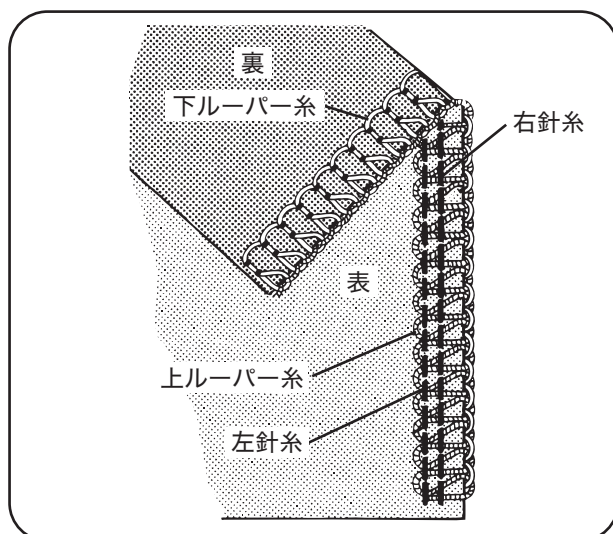
布地に合った針と糸を使用するのがきれいに縫うポイントです。
きれいに縫えないときは、下記表を参考にし、布地に合った針、糸をお選びください。

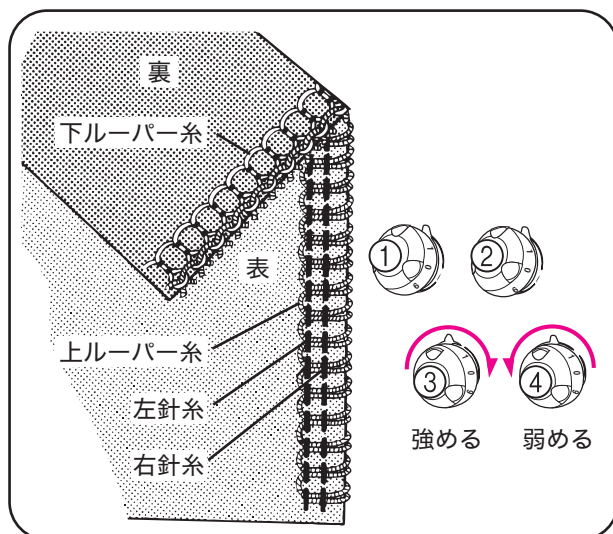
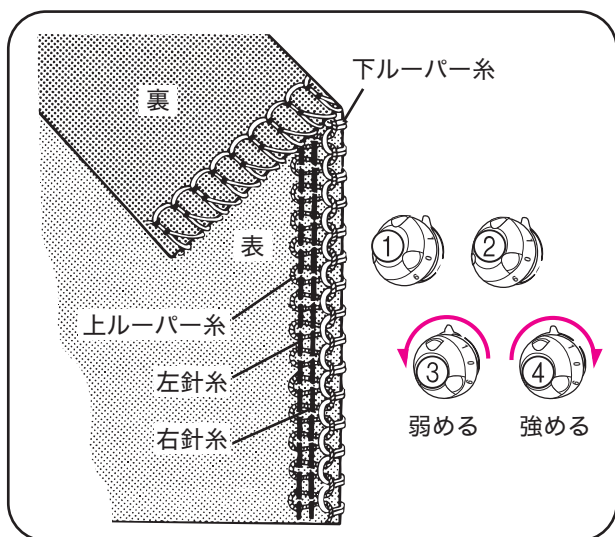
<table>
<tr><th></th><th colspan="2">薄布地
（裏地、ジョーゼット）</th><th>普通布
（コットン、ウールなど）</th><th>厚地布
（厚デニム、ジャージなど）</th></tr>
<tr><td>針
HA×1
（家庭用ミシン用）</td><td colspan="2">11番</td><td>11番～14番</td><td>14番</td></tr>
<tr><td>糸</td><td colspan="2">ポリエステル
（スパン、フィラメント）
60番/2本より
～80番/2本より
（80番/3本より
～100番/3本より）
（3本糸縁かがり縫い）</td><td>60番/2本より
～80番/2本より
（3本又は4本糸
縁かがり縫い）</td><td>50番/２本より
～60番/2本より
（3本又は4本糸
縁かがり縫い）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">糸調子
（針糸）</td><td colspan="2">弱め</td><td>普通</td><td>強め</td></tr>
<tr><td colspan="4">（ ルーパー糸は弱めでバランスとるようにします ）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">切り幅
（左針からの切り幅）
（調節はP10参照）</td><td>SL1T</td><td>5～5.5 ㎜</td><td>5～5.5 ㎜</td><td>5.5～6 ㎜</td></tr>
<tr><td>SL1T-X</td><td>5～5.5 ㎜</td><td>5～6 ㎜</td><td>5.5～6.5 ㎜</td></tr>
<tr><td>縫い目ピッチ
（調節はP11参照）</td><td colspan="2">2～2.5 ㎜</td><td>2.5～3 ㎜</td><td>2.5～3 ㎜</td></tr>
</table>

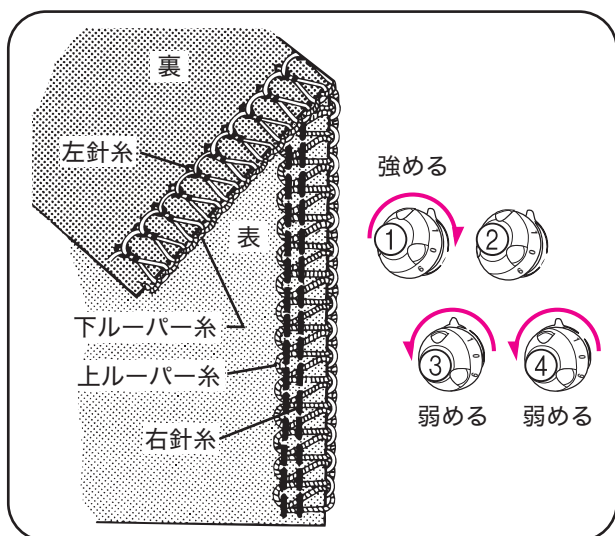
糸調子の調節

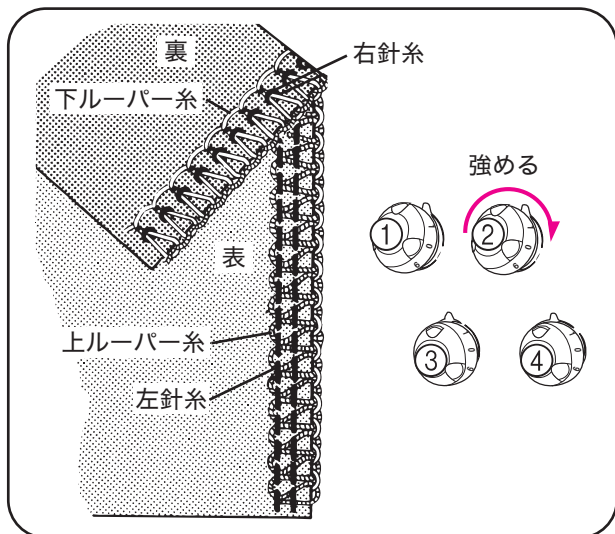
できるだけ弱い張力でバランスをとるようにしてください。
糸調子ダイヤルの数字を大きくする程糸調子は強くなります。
糸調子ダイヤルの数字を小さくする程糸調子は弱くなります。

① 左針糸調子
② 右針糸調子
③ 上ルーパー糸調子
④ 下ルーパー糸調子

正しい糸調子

上ルーパーと下ルーパーが同じ張力でバランスよく交わっている（両ルーパー糸が布の端で交わっている）。右針糸や左針糸がたるんだり、引っ張られたりしていない。

上ルーパー糸が布の裏へ巻き込まれる場合

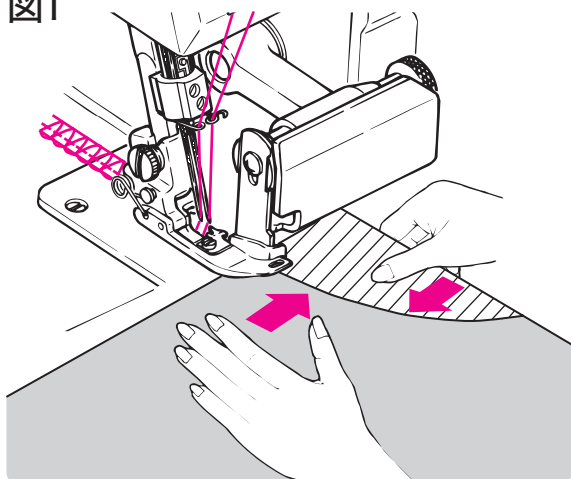
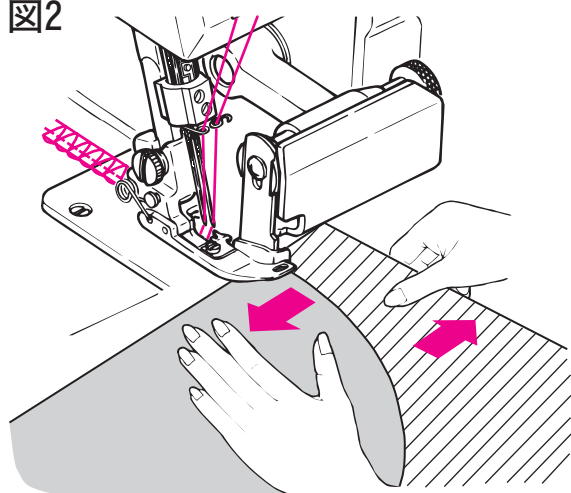
上ルーパー糸調子（ダイヤル ③）の数字を大きくするか、下ルーパー糸調子（ダイヤル ④）の数字を小さくします。

下ルーパー糸が布地の表側に巻き込まれる場合

下ルーパー糸調子（ダイヤル ④）の数字を大きくするか、上ルーパー糸調子（ダイヤル ③）の数字を小さくします。

左の針糸がゆるい場合

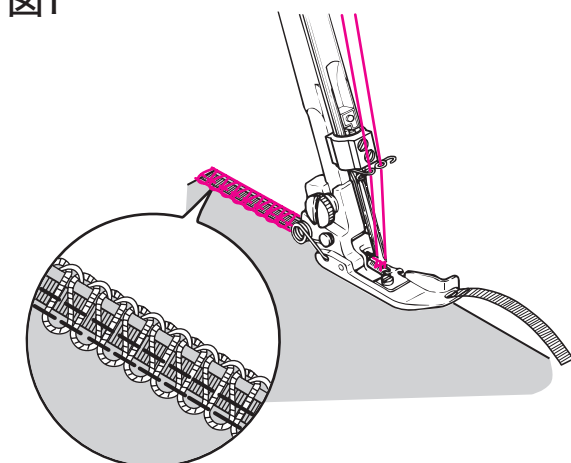
左針糸調子（ダイヤル ①）の数字を大きくするか上ルーパー糸調子（ダイヤル ③、④）の数字を小さくします。

右の針糸がゆるい場合

右針糸調子（ダイヤル ②）の数字を大きくします。

カーブ縫い

1. 内側カーブ縫いのときは、右手で布をガイドし、左手で布を右に寄せるようにして縫います。（図1）

2. 外側カーブ縫いのときは、右手、左手共に外側に開くようにして縫います。（図2）

テープ縫い

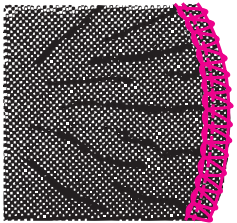
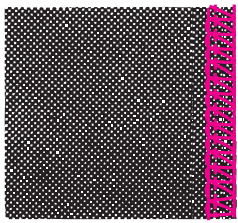
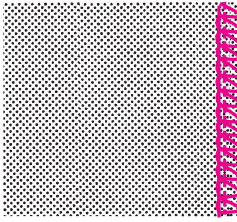
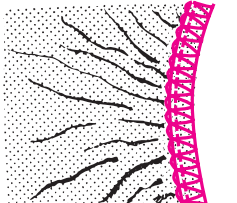
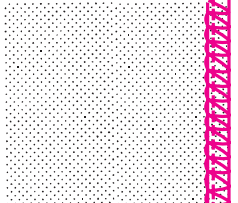
ニット地のように伸びやすい布を縫うとき、縫い目を補強、又は安定させるため、テープ縫いをします。

1. テープを押えの穴に通してから下に入れ、テープの中心が右の針にくるようにして縫いこみます。（図1）
2. テープは、幅3㎜のものを使用ください。

差動送り

差動送りとは、主送り歯（縫い目ピッチ調節レバーの目盛）に対し、差動送り歯の布送り量を変えることで布地を伸ばしたり、縮めたりしながら縫うことができます。

たとえば、縫い目ピッチ調節レバーの目盛を「3」（約3㎜）差動送り調節ダイヤル目盛「2」にした場合、差動送り歯は約6㎜布地を送ります。
また、差動送り調節ダイヤル目盛「N」（1）にした場合、差動送り歯は約3㎜布地を送ります。

差動送りの調節

差動送り調節ダイヤルを回し、マークに目盛を合わせます。

差動送りダイヤル目盛の目安

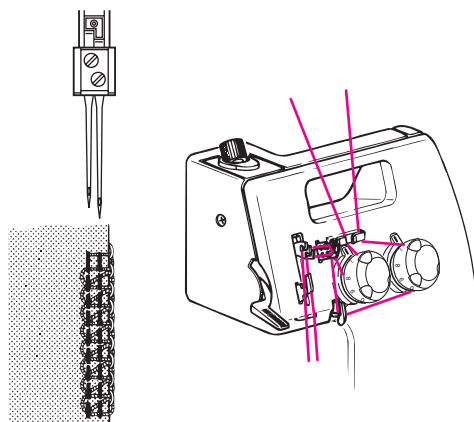
	布地の種類	差動送り Nで縫った場合	差動送りダイヤル	差動送りダイヤルを合わせて縫った場合
伸びやすい布	ニット ジャージ メリヤス		N～2 ［布を縮めながら縫います］	
普通布	コットン ウール		N	
縮みやすい布	ジョーゼット 裏地 綿ローン		0.7～N ［布を伸ばしながら縫います］	

＊ 使用する布の切れはしで、試し縫いをして調節してください。

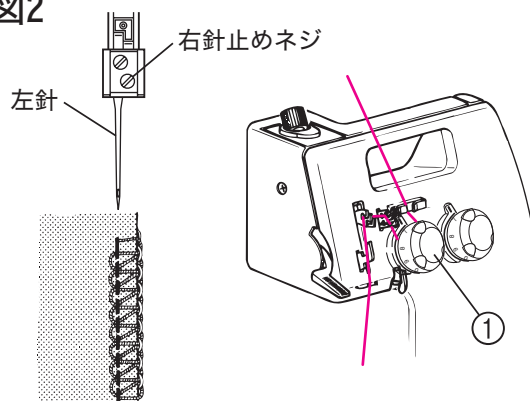
3本糸縁かがり縫い

⚠注意

- 針を取りかえるときは、電源スイッチを「OFF」にしてください。ケガの原因になります。
- 針止めネジがしっかり締まっていることを確認してください。ケガの原因になります。

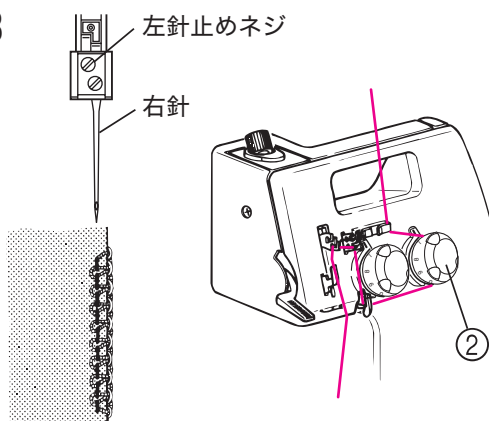
このミシンは、2本針4本糸の縁かがり縫いミシンですが（図1）、針をどちらか1本外すことにより、3本糸縁かがり縫いができます。

左針3本糸縁かがり縫い（図2）

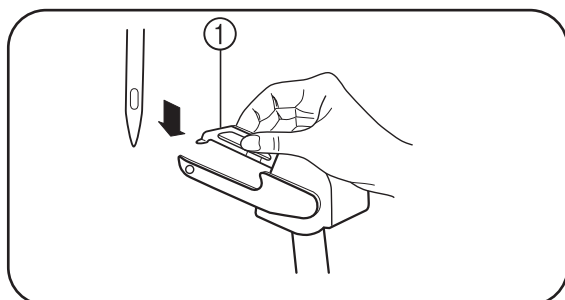
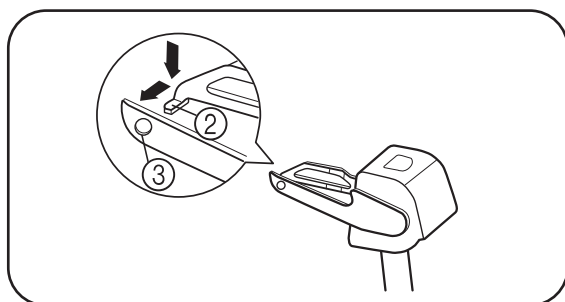
1. 右針止めネジをゆるめ右針のみ取り外します。
2. 左針糸調子①を使います。

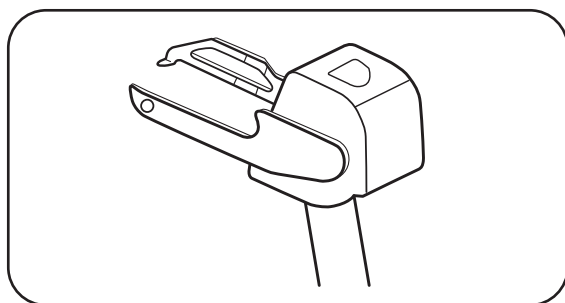
＊ かがり幅は、4本糸縫いと同じ4～6 mmです。

右針3本縁かがり縫い（図3）

1. 左針止めネジをゆるめ左針のみ取り外します。
2. 右針糸調子②を使います。

＊ かがり幅は、左針より2 mmせまく、2～4 mmになります。

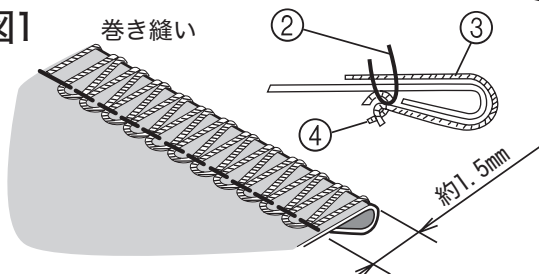
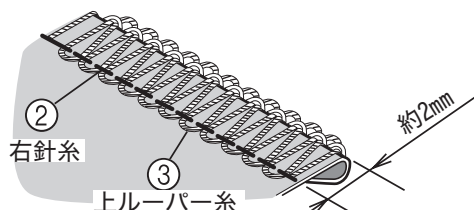
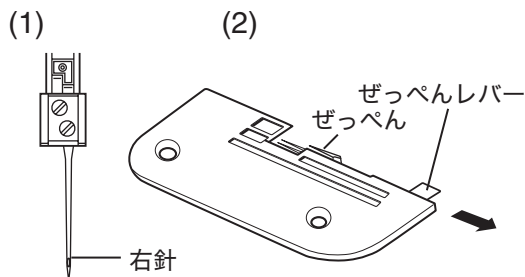
2本糸縁かがり縫い　SL１T−Xのみ

⚠注意

❗ かぎルーパーを上ルーパーに取り付けたり、外したりする時は、電源スイッチを「切」にして下さい。ケガの原因になります。

このミシンは、２本針4本糸の縁かがり縫いミシンですが針を1本（右針または左針）と下ルーパー糸を用いて縫います。

使わない方の針と針糸、及び上ルーパー糸は取り除きます。

1. フロントカバーを開きます。
2. かぎルーパー①を手で持ち、上ルーパー③の穴にかぎルーパーの爪②をさしこみます。
3. フロントカバーを閉じます。
   ※かがり幅は「5.5」とします
   ※差動送りは「N」にします

３本糸縁かがり縫い・４本糸縁かがり縫いに変更する場合は、かぎルーパーの爪を上ルーパーの穴から外し、かぎルーパーをもとの位置に戻します。

巻き縫い

⚠注意

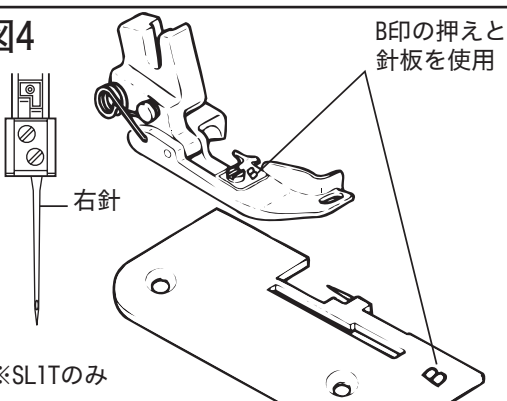
❗ 針板・押えを取りかえるときは、電源スイッチを「OFF」にしてください。
ケガの原因になります。

下ルーパー糸④の糸調子を強くして、巻き込んだ布をさらに糸で巻くようにして縁かがりします。

布を巻き込みながら縁かがりをします。
糸調子の調節は、縁かがり縫いと同じです。

巻き縫いは、薄い布を巻き込みながら縁かがりします。

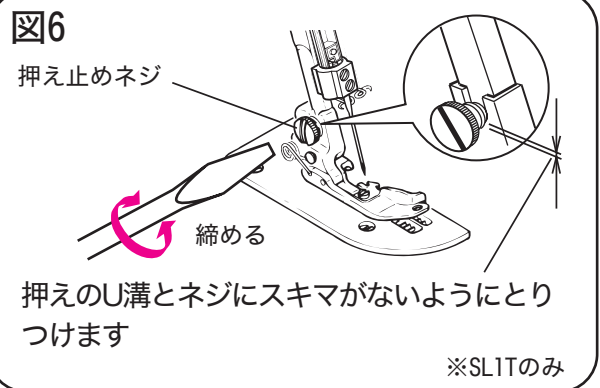
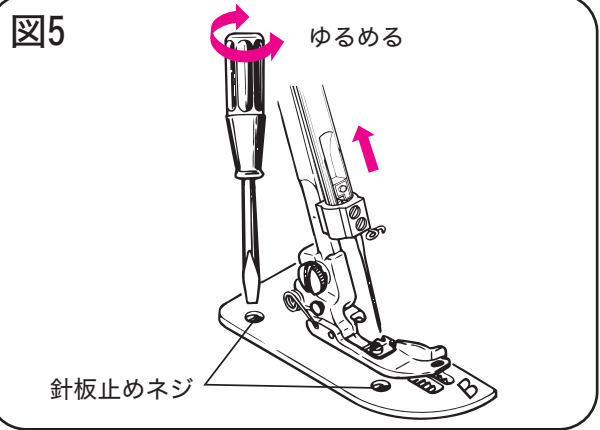
巻き縫いのセットのしかた

□SL1T-Xの場合

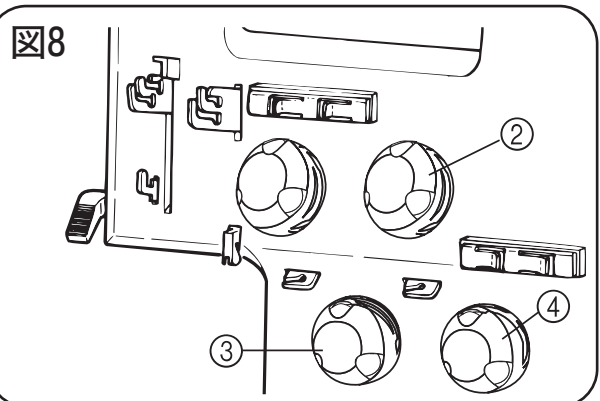
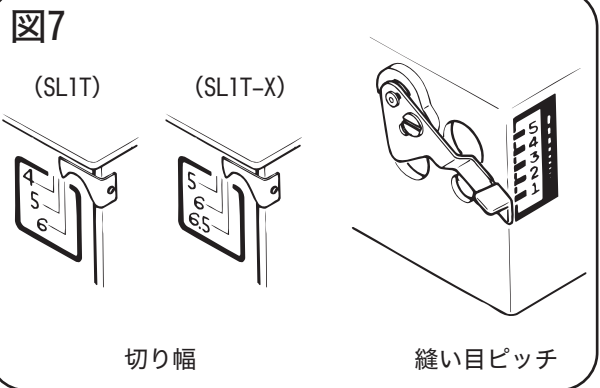
1. 針は右針を使用します。
2. 「ぜっぺんレバー」を手前に引き、ぜっぺんを図3の位置にします。

□SL1Tの場合

1. 針は右針を使用します。
2. 針板と押えは「B」の印が付いている巻き縫い用に交換します。（図4）

針板と押えの取りかえかた
（SL1Tのみ）

1. 上メスを解除します。（P9参照）
2. はずみ車を手前に回し、針を一番上に上げます。
3. 押えを上げます。
4. 2本の針板止めネジを付属のドライバー（大）で取り外し、巻き縫い用針板「B」に取りかえます。（図5）
5. 押え止めネジをゆるめ、巻き縫い用押えに取りかえます。（図6）
   （イ） 押えを取り付けるときは、押え止めネジを止まるまで指で軽く回します。
   （ロ） 押えを下げます。
   （ハ） 押え止めネジをドライバーでしっかり締めます。

巻き縫いの目安

		巻き縫い	細ロック縫い
切り幅（図7）		5〜6㎜	5〜6㎜
縫い目ピッチ（図7）		1〜1.5㎜	1〜1.5㎜
差動送り		N	N
糸調子（図8）	右針 ②	1〜4	1〜4
	上ルーパー ③	1〜4	2〜4
	下ルーパー ④	5〜8	2〜4

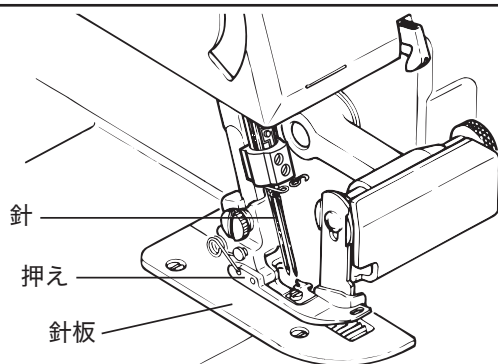
＊ 布と糸の種類により異なりますので試し縫いをして、調節してください。

7 ミシンのお手入れ

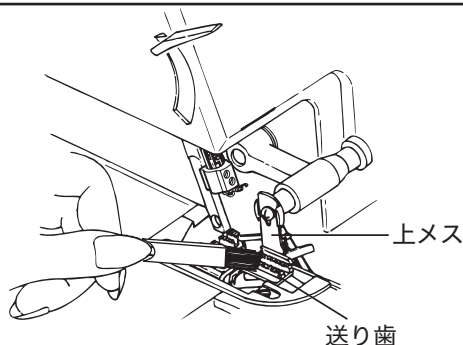
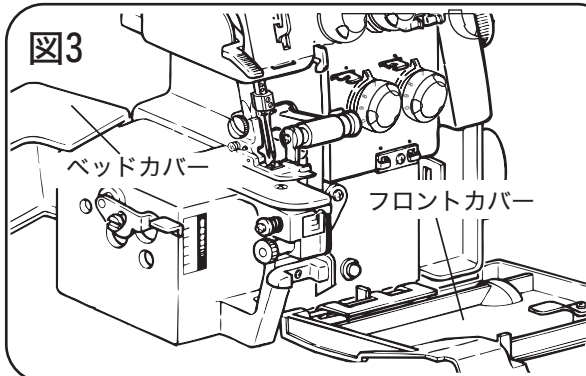
⚠注意

- ミシンのお手入れをするときは、電源スイッチを「OFF」にし、電源プラグを抜いてください。ケガの原因になります。
- ミシンのお手入れををするときはメスの刃部に指を触れないでください。ケガの原因になります。

＊ ミシンをいつまでも調子よくお使いいただくために、お手入れを月1～2回おこなってください。

＊ 本体が汚れたときは柔らかい布で、からぶきしてください。

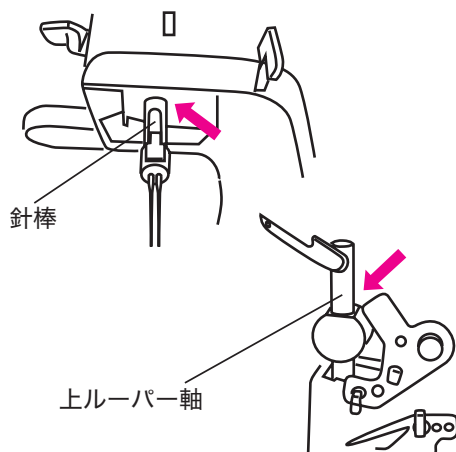
住宅用洗剤、漂白剤、ベンジン、シンナー、化学ぞうきんを使用しないでください。
変色したり、割れの原因になります。

送り歯とカバー内部のお手入れ

1. 針をいちばん上がったところで止め、付属のドライバーで、針・押え・針板を外します。（図1）

2. 送り歯やメスについた糸クズやホコリを取りのぞきます。（図2）

3. カバー内部は、ベッドカバー・フロントカバーを開き糸クズやホコリを取りのぞきます。（図3）

＊ 掃除機を使用すると便利です。

注油のしかた

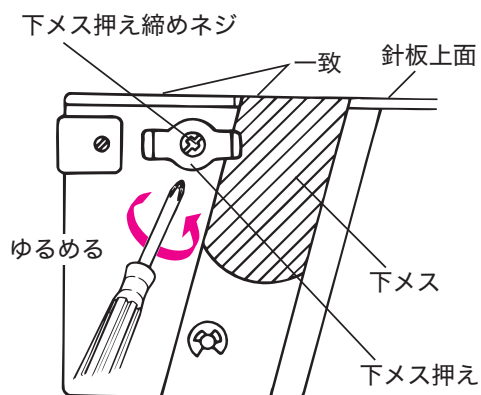
1. 矢印のところに1～2滴注油します。（図4）

＊ 油はミシン油を使用してください。
＊ 注油が多すぎますと、糸や布が汚れたりしますのでごく少量にとどめてください。
＊ 注油後は安心して使っていただくために汚れてもよい布で必ず試し縫いをしてください。

メスの取りかえかた

1. 布の切れ味が悪くなったときは、下メスを取りかえます。

2. 下メスの取りかえかた（図5）

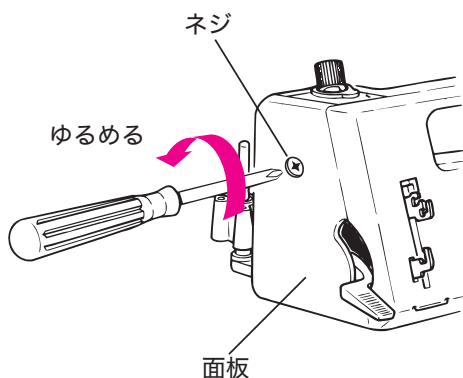
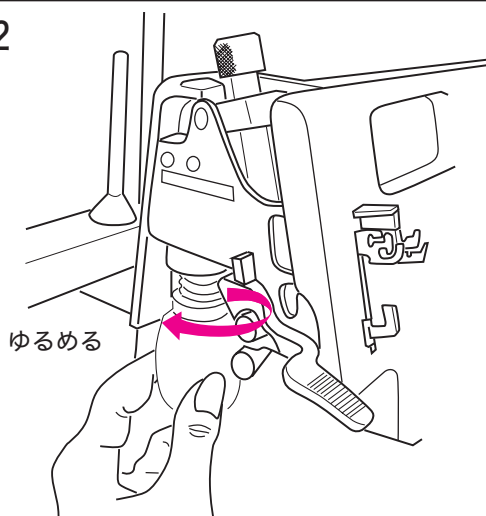
＊ 必ず電源スイッチを「OFF」にしてください。

(1) 下メス押え締めネジをゆるめ下メスを取り外します。
(2) 下メス上面が、針板上面と一致した位置に、下メスを取り付けます。

3. 下メスを取りかえても、切れ味が悪い場合は上メスの交換が必要です。

下メスの買い替え及び、上メスの交換対応についてはトヨタミシン取扱い店または表紙の【お問い合わせ先】へご連絡ください。

8 ランプの取りかえかた

⚠注意

ランプを取りかえるときは、電源スイッチを「OFF」にし、電源プラグを抜き、ランプの熱がさめてから行なってください。やけどや感電の原因となります。

1. ネジをお手持ちのドライバーでゆるめ面板を取り外します。（図1）

2. ランプは左方向に回して外します。新しいランプを右方向に回しながら、ねじ込みます。（図2）

＊ ランプは、白熱ランプ110V15Wの口金E12と指定の上、お近くの購入店又は電気店でお買い求めください。

＊ 取り外した面板は必ず取り付けてから、ご使用してください。

9 ミシンの調子が悪いとき

どこの調子が悪いのですか？まず次のことを確かめましょう。

現象	原因	処置	参照ページ
ミシンが動かない	・電源プラグ・フットコントローラープラグが差し込まれていない	・電源プラグ・フットコントローラープラグをしっかり差し込む	7
布地を送らない	・押えの圧力が弱すぎる ・差動送りが布地に合っていない	・押え圧調節ネジを時計の針の方向（右回り）へ回し強くする ・差動送りを正しくセットする	8 25
針が折れる	・針が曲がっていたり、つぶれている ・針の取り付けかたが悪い ・縫っているときに布を引っ張った	・新しい針に取りかえる ・針を正しく取り付ける ・布を引っ張らない	12 12 20
糸が切れる	・糸の通しかたがまちがっている ・糸調子が強すぎる ・針の取り付けかたが悪い	・糸を正しく通しなおす ・糸調子ダイヤルの数字を小さくする ・針をセットしなおす ・新しい針に取りかえる	13〜18 22 12 12
目とびする	・針が曲がっていたり、つぶれている ・針の取り付けかたがまちがっている ・糸の通しかたがまちがっている	・新しい針に取りかえる ・針を正しく取り付ける ・糸を正しく通しなおす	12 12 13〜18
縫い目の調子が悪い	・糸調子が正しくない	・糸調子を調節する	21〜23
縫いじわができる	・針糸調子が強すぎる ・糸の通しかたがまちがっている ・差動送りの調節が合っていない	・針糸調子を弱くする ・糸を正しく通しなおす ・差動送りダイヤルを0.7〜Nにセットする	22 13〜18 25

確かめてもまだ調子の悪い場合は点検・修理の依頼をしてください。
連絡先は保証書を参照してください。

⚠注意

⊘ 分解、改造はしないでください。
感電・火災や異常動作でケガの原因になります。

10 ミシンの保管方法

保管するときは、次のことに注意してください。
1. 湿気やホコリの多い場所には置かないでください。
　（故障の原因になります。）
2. 直射日光の当たる場所や熱器具の近くに置かないでください。
　（変色・破損の原因になります。）
3. 不安定な場所に置かないでください。
　（落ちたり、倒れたりすると危険です。）
4. 逆さまや、横倒しに置かないでください。
　（故障の原因になります。）
5. 油煙や湯気の当たる場所に置かないでください。
　（故障の原因となります。）

保管してあるミシンを取り出すときは次のようにしてください。
1. 片手でハンドルを持って、もう片方の手でミシンの底に手を添えてください。

11 仕様

このミシンは日本国内向けの家庭用小型ロックミシンです。仕様及び外観は改良のため予告なく変更することがありますのでご了承ください。

使用糸本数	4本糸（3本糸）　※SL1T-Xは２本糸もできます
使用針本数	2本 (1本)
使用針	HA-1（家庭用ミシン針）11番、14番
2本の針間かく	2㎜
かがり幅	標準5㎜　※SL1T-Xは5～6.5㎜
切り幅	4～6㎜　※SL1T-Xは5～6.5㎜
縫い目ピッチ	1～4.4㎜
差動比	1：0.7～2
最高回転数	1200rpm
ミシンのサイズ	幅：320㎜　高さ：340㎜ 奥行：255㎜（糸掛け棒使用時高さ：550㎜）
ミシンの重さ	7kg（コントローラーを含む）
定格電圧	交流100V（ボルト）
定格周波数	50/60Hz（ヘルツ）
定格消費電力	105W（ワット）　（ランプ15W含む）

12 別売り押えのご案内

まつり縫い押え（薄地用）

ズボンやスカートの裾をまつるときに使います。ブロード等薄めの布地に使います。

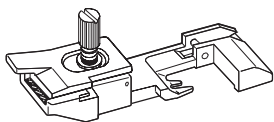
(0.5 m/m)

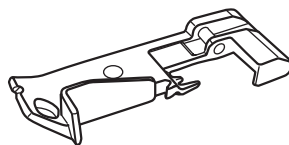
まつり縫い押え（厚地用）

ズボンやスカートの裾をまつるときに使います。デニム、ジャージー等厚めの布地に使います。

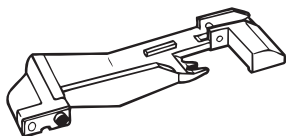
(1.0 m/m)

ゴム付押え

布端にゴムテープ（幅8〜10mm）を縫いつけるときに使います。

パイピング押え

市販のパイピング芯を縫いつけるときに使います。

ギャザー押え

2枚重ねの布地のうち一方の布地だけギャザーをつけながら縫い合わせるときに使います。

SL1Tはありません。

注：「SL1T」は押えのホルダーと一体タイプです。

修理サービスについて

⚠注意

⃠ 修理、分解、改造はしない。感電・火災や異常作動によるケガの原因になります。

●修理サービスのご相談

1. お買い求めのミシンには、購入店（保証履行者）から1年間の無料修理保証書が発行されています。内容をお確かめのうえ大切に保存してください。
2. 無料修理をお受け頂く場合は、保証書が必要になります。保証書に「購入日」「購入店」の記載がない場合は、「納品書」または「領収書」が必要になります。

●修理部品の保有期間

1. 交換修理に必要な補修用性能部品は、製造打ち切り後8年間、当社に保有しています。
2. 修理部品に応じて、当社より購入店に供給できるよう体制を整えております。

●無料修理保証期間経過後の修理サービス

1. 無料保証期間を経過しても、修理部品保有期間中は購入店を通じて有料修理サービスをいたします。
2. 長期間にわたって使用された場合、アフターサービスに万全を期しましても、新品同様の性能まで修理できないことがあります。
3. 出張修理は、お受けいたしておりませんので、あらかじめご了承ください。
4. 有料サービスの場合の費用は、技術料・必要部品代・往復の送料の合計金額になります。
5. 修理・不具合に関するお問い合わせは、お買い上げの販売店及び、「お客様相談室」で受け付けております。

製造販売元：**アイシン精機株式会社**
〒448-8650　愛知県刈谷市朝日町２丁目1番地

お客様相談室 0120 フリーダイヤル　0120-24-8640
受付時間：平日　8:30〜17:30
（土日・年末年始・ゴールデンウィーク・夏季休暇は除く）

679111-1DB10